（その 101）住所が決まり仕事も見つかりました

10 月中旬、友人の紹介という事で２年前から川崎区下並木に住んでいるＭさん（53 歳男性）が「左足の膝に水がたまり内出血とおできが出来て手術をしたがその後の回復が遅れている。糖尿病なのに食事管理もできないし半地下で窓もない部屋なのでアパートに移りたい」という相談でした。

所長は福祉事務所に同行し「今年度居住支援の意向調査をしているはずだが推進状況とＭさんは対象にならないのか」と聞きますと担当者は５９４人から移転希望の意向調査をしたが２９５人から民間アパートに移りたいとの希望があった。

体調が良くなれば仕事をしたいと強い希望

Ｍさんも対象だが医師の診断書が必要ですとの事でした。

Ｍさんは 11 月中旬に診断書を提出し膝の調子が良くなれば働きたいと福祉事務所に強く要望し就職活動も開始しました。

履歴書に住所が書けて仕事が決まる

その結果今年の１月 10 日に民間アパートに引っ越し、履歴書の住所を書き直して面接に行ったらレストランの炊事場の仕事が決まりました。

Ｍさんから「相談センターのおかげで民間アパートに移れて食事管理もできるようになり仕事も決まりとても良い新年を迎えることが出来ました。毎日元気に働いています。」と明るい声で連絡が来ました。